

1 題材名 絵を語ろう

2 目標

- (1) 身近な造形作品に関心をもち、表現内容や材料による感じの違い、よさや面白さなどを味わおうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- (2) 美術作品について話したり、聞いたりすることを通して、よさや面白さを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

本学級の児童は図画工作科への興味・関心が高く、A表現では、これまでに絵や工作に表す題材に意欲的に取り組んできた。一方、B鑑賞については、お互いの作品を見合う体験はしてきているが、身近な美術作品を対象にした鑑賞は未体験である。実態調査の分析でも、絵を見るときに自分なりの価値意識でよさや面白さを判断している児童は少なかった。また、授業中は活発に発言する児童もいるが、自分なりに感じたことや考えたことを整理して発言したり、友達の意見と関連づけながら自分の意見を述べたりする活動は苦手である。

実態調査の結果

(調査人数32名 平成26年10月5日)

1 絵を見るとき、よさやおもしろさを考えながら見ることがありますか。	はい 12人	いいえ 20人
2 友達の意見や考えを詳しく聞くことがありますか。	はい 20人	いいえ 12人
3 友達の意見と自分の意見を比べて聞いていますか。	はい 8人	いいえ 24人
4 自分の意見や考えを進んで発言していますか。	はい 10人	いいえ 22人

本題材は、ビジュアル・シンキング・ストラテジー (Visual Thinking Strategies, VTS) の手法を用いて身近な美術作品を鑑賞する活動で、第3学年及び第4学年の目標(3)「身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。」に対応し、鑑賞の能力を高めることに関する内容である。VTSは、指導者のファシリテーションのもと、美術作品を見て感じたことや意見をグループで発言し合うもので、鑑賞者同士のコミュニケーションを通して美術作品を読み解いていく対話型の鑑賞方法である。VTSは構成主義に基づく鑑賞教育の方法論のひとつといえる。したがって教材となる美術作品にあらかじめ固有の教育的価値があるとの立場をとらない。教材となる美術作品を注意深く見つけ、自分の見方や感じ方ととらえ、新しい意味を発見していく学習方法は、観察力を育てるとともに、思考力や表現力の育成にもつながるものである。

そこで、全ての児童が自分なりの感じ方や見方をもつことができるよう、可能な限り多くの児童に発言の機会が与えられるファシリテーションを心がけると共に、全ての発言を傾聴し、理解し、尊重するように扱っていきたい。また、鑑賞を深める対話を実現するには、児童が他の鑑賞者の発言に耳を傾け、それによって観察や思考が深化し、それぞれの児童の意見が形成されていくプロセスが重要である。したがって、ファシリテーションにおいては、児童の発言から関連する意見同士を結びつけて整理したり発問したりする学習支援に重点を置きたい。友達の話を聞いて、自分の意見と関連づけながら考えることは、本学級の児童が苦手とするところでもある。「聞く力」や「考える力」の開発を刺激する学習活動の実現は、こうした課題解決に接近できる可能性をもっている。教材とする美術作品は、VTSの研究実績や児童の実態を合わせて熟慮し、マルク・シャガールの「青いサーカス」とパーマー・ヘイデンの「絵を描く管理人」の2点を選定した。これらはいずれも、主題に物語性が強く表れている絵画作品で、児童の表現と関連のある「身近にある作品」として教材に選定した。この鑑賞活動が、この後に扱う題材「物語の世界」と関連し、児童それぞれの作品づくりにおける発想のヒントになったり、表現の幅を広げたりする機会になることも副次的なねらいとして指導していきたい。

4 指導計画及び評価規準 (1時間扱い) ○は本時

時	学習内容	評価規準	評価の観点	
			関	鑑
①	絵を鑑賞し、気づいたことや考えたことなどについて友達と話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの見方や感じ方で、作品のよさや面白さを味わおうとしている。 ・意見を話したり聞いたりすることを通して、よさや面白さを感じ取っている。 	○	◎

5 本時の学習

(1) 目標

絵を見て気付いたことや考えたことなどについて自由に話し合う活動を通して、よさや面白さを感じ取ることができる。

(2) 十分満足と判断される視点及びCと判断される児童への手立て

観点	(A)	(C)
鑑賞の能力	絵について話したり、聞いたりすることにより自分の感じ方や見方を深めることができる。	思うように発言ができない児童は意図的に指名したり、意見や考えをワークシートにまとめさせたりする。

(3) 題材における本時の重点

友達の発言を聞き、自分の意見や感じ方と関連づけながら、よさや面白さを感じ取る力を付ける。

(4) 本校の人権教育の視点との関連

友達の意見に耳を傾け、多様な考えを認めながら話し合う活動を通して、本校の人権教育の視点
1 (偏見をもたず、だれに対しても公正公平にふるまえる) に迫りたい。

(5) 準備・資料

図版資料 (マルク・シャガール「青いサーカス」、パーマー・ヘイデン「絵を描く管理人」)、プロジェクター、スクリーン、ワークシート

(6) 展開

㊦は重点化したい言語活動

㊧は人権教育の視点との関連

学習活動及び内容	支援と評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>絵について語り合い、自分なりのよさや面白さを見つけよう。</p> </div> <p>2 作品を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A, B 2つのグループで、「参加者」と「観客」の立場に分かれて活動する。 ・ 1回目と2回目では立場を交換する。 <p>1回目: マルク・シャガール「青いサーカス」 2回目: パーマー・ヘイデン「絵を描く管理人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「参加者」は映像の近くに集まる。「観客」は周りから活動を見る。 ・ 「参加者」はスクリーンに映された絵を見て、発見したこと、考えたこと、感じたことなどを発表する。 ・ 「観客」は話合いの様子を見て、考えたことなどをメモする。 <p>・ 1回の話し合いは15分とし、各回の終わりには「観客」からの発言を聞く時間をとる。</p> <p>〈「参加者」のルール〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 意見があるときには手を挙げる。 ○ 指名されたら発言する。 ○ どんな意見でも大切に認める。 ○ 可能な時には「ハンドサイン」を示す。 <p>〈ファシリテーターの基本的な発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵の中では何が起きているでしょう。 ○ どこからそう言えると思ったのですか。 ○ もっと見つかることはありませんか。 <p>〈予想される意見〉</p> <p>マルク・シャガール「青いサーカス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚や馬などが人間のように描かれているのが面白い。 ・ サーカスの楽しい場面なのに、全体が青い色合いなのでさみしい感じがする。 <p>パーマー・ヘイデン「絵を描く管理人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんが生まれた記念に、絵を描いてもらっているのだと思う。 ・ 貧しい暮らしでも、家族のあたたかさを感じる。 <p>3 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の振り返りをワークシートに記入する。 <p>4 次時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>好きな物語の心に残った場面を絵に表そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の見方は人によって様々であり、多様な解釈の可能性のあることを、ごく簡単な作品例を示して理解できるようにする。 ・ 学級を2つに分ける際、積極的に発言する児童が散らばるようにグループ分けに気をつけたい。 ・ 自由で多様な意見が出るように、リラックスした雰囲気を演出する。 <p>㊧お互いの発言を大切に聞き、どんな意見でも平等に認める姿勢で話合いに参加する「約束」を確認しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の発言を注意深く聞き、十分に言語化できなかった気付きを別の表現で言い換えるなどして、児童の考えがより明確になるよう支援する。 <p>㊦作品についてのよさや面白さを感じ取るために、根拠を明らかにして自分の意見を発表したり、具体的な表現と結びつけて友達の話の聞いたりできるよう、発表のしかたや話の聞き方の工夫について助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の中で言及した箇所を指さし、発言と作品の内容を結び付けて考えることができるようにする。 ・ 児童の発言を繰り返したり言い換えたりすることによって、児童の意見をより明確にしたり視野を広げたりする。 <p>㊧教師は、児童のどんな発言に対しても、どんな意見に対しても中立的な態度を心がけ、認め励ますような表情やジェスチャーを示して話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する意見同士を結びつけることにより、児童らが自分の考えを広げたり深めたりできるよう支援する。 ・ 教師が作品についての結論を話すのではなく、活動についての評価や様々な意見を再度まとめて振り返ることにより話し合いを終了する。 <p>・ 活動の中で話し足りなかった意見なども記入させ、考えたことを可能な限り表現させられるようにしたい。</p> <p>㊦絵についての意見を話したり聞いたりすることを通して、作品のよさや面白さを味わうことができたか。(観察, ワークシート)</p>